

- 北海道立図書館北方資料室所蔵資料展 -

北の住まい



会期:平成 20 年3月 12 日 ~ 4月 29 日

場所:北方資料室展示ホール

<開催にあたって>

原油価格の高騰に伴い、物価・電気料金なども相次いで値上がりしている
昨今、冬季における本道の生活も経済的に厳しい条件の下に置かれています。

とりわけ積雪寒冷という過酷な気候風土に適応するため、北海道ではどの
ような住環境作りが模索・形成されてきたか、所蔵資料を通して知恵と工夫
に彩られた過去の歴史を振り返ります。

【目次】

【北海道住宅の系譜】

1 - 1 通史	1 ~ 2
1 - 2 近世紀（幕末～開拓以前）	2 ~ 3
1 - 3 開拓期～明治期（1869～1912年）	3 ~ 4
1 - 4 大正期～昭和期（1912～1926年 / 1926～1989年）	4 ~ 6

【北方型住宅における防寒対策の取り組み】	6 ~ 8
----------------------------	-------

【北海道住宅の系譜】

1 - 1 通史

幕末・明治から現代に至る北海道住宅の歴史は、以下の資料によって概観することができます。

- (1) 『北海道住宅史話(上・下)』(遠藤明久著 住まいの図書館出版局 1994 請求記号 527-HO)

近年、益々寒冷多雪の気象条件に適応した住宅の技術開発の動きが顕著であるが、北海道内の住宅史を通観しながら技術開発の流れを紹介するもの。

〔内容〕(上)「北の住宅実験場」は主に江戸末期から明治期にかけての記述。

〔内容〕(下)「日本住宅亜種の誕生へ」は主に昭和初期から現代までの記述。

- (2) 『北海道の衣食と住まい(北の生活文庫5)』(北の生活文庫企画編集会議編 北海道 1997 請求記号 383-HO)

“第3章 住まい 昔の住まい、新しい住まいの様式”の項：p117～251

〔内容〕 アイヌ民族、松前藩時代・漁村・農村・まちの住まい

〔内容〕 住様式の移植・定着、防寒住宅の系譜、和洋折衷の生活、農村住宅の変貌、都市住様式の他府県との比較など。

- (3) 『北海道を探る(7) 雨竜特集その1』(北海道みんぞく文化研究会 1985 請求記号 210.08-HO-7)

“第3章 第3節 住宅の変容課程”の項：p99～121

明治20年以降、道外他県からの移住者によって開拓された雨竜町において、移住者がもつ住文化が風土条件の中でどのように継承・変化したかを解説。

- (4) 『北海道の住まい 環境の豊かさを生かす』(北海道大学放送教育委員会編 北海道大学図書刊行会 1992 請求記号 527.1-HO)

- (5) 『鷹栖のすまい』(鷹栖町郷土史研究会編・発行 1989 請求記号 521-TA)

“すまいの変遷”の項：p5～16

明治から昭和初期にかけての鷹栖町への入植者たちによる住宅の変容過程を詳述。

- (6) 『開拓の村展示棟から見た北海道文化の基礎とその継承(北海道開拓の村研究報告1)』(北海道開拓の村 1997 請求記号 069-HO)

“残存する昭和初期の建造物”の項(中村齋著): p65～81

北海道における住居の変遷と時代背景について、主に開拓期から現代に至る住居建築に見る北海道文化を分析。

- (7) 『木の城たいせつ 2 1 歴史から学ぶ総合実証 **第 1 部 歴史と実証** 』(冬総研 1999 請求記号 527-KI-1)

「木の城たいせつ」オーナーの山口昭氏による山口家の歴史をひもとく。山口家の北海道への移住(石川県金沢市から屯田兵として深川市へ)を題材に、北海道住宅の歴史と変遷を写真と共に紹介。

- (8) 『北海道の民家』(北海道新聞社編 北苑社 1971 請求記号 383.9-HO)

昭和 46 年 3 月～6 月に「北海道新聞 日曜版」掲載された連載記事をまとめたもの。開拓の歴史、郷土の観光案内も含め、北海道内の由緒ある建物様式を多角的な視点で紹介。

- (9) 『北海道の民家』(小寺平吉著 明玄書房 1969 請求記号 383.9-KO)

住まいを媒介とした北海道の今昔の歴史を綴ったもの。

北海道の住宅の歴史は、上記「1 - 1 通史」で紹介しました『北海道住宅史話(上・下)』(遠藤明久著 住まいの図書館出版局 1994)によれば、時代的に次のような項目に分類されます。

幕府直轄の住宅

洋風の開拓使の住宅

屯田兵の住宅

寒地住宅に向けての模索(暖房設備の変遷等も含む)

開拓農家・炭坑・工場住宅

防寒構造の模索

これらの区分を参考に、主に民家を中心に北海道住宅の歴史を論及・解説した資料を時代順に紹介します。

なお、現在の北海道の都市住宅の系統としては、大まかに〔1〕北陸地方を中心とする日本海沿岸地域の町家、〔2〕江戸時代の武家の住宅、〔3〕“お雇い外国人”によって導入されたアメリカ様式の住宅があります。

1 - 2 近世期(幕末～開拓以前)

明治時代以前に市街化が進んだのは江差・松前・函館などですが、特に江差は 17 世紀からニシン漁をはじめとする海産物交易の町として繁栄しました。漁家・商家など、雄大な規模や内部空間の豪快さが特徴です。

北陸地方型の町家は江差のみならず、札幌や函館などでも初期の頃は一般的であったようです。

ただし、これら道南の一部地域を除くと概して北海道への移住は、出稼ぎの要素が強く、住まいも仮設に近い非常に粗末な内容でした。

(1) 『松前町史 通説編第1編上』(松前町史編集室編 松前町 1984 請求記号 218.59-MA-ツ-1-1)

“第3編 幕藩体制の成立・展開と松前 第5節 生活と風俗”の項：p1008～1021

(2) 『北の港町から』(日本板硝子 1976 請求記号 521-KI)

等々

1 - 3 開拓期 ~ 明治期 (1869 ~ 1912 年)

本州から移住した人々の開拓小屋(開拓農家)のほかに、開拓使設置(1869年)以降は、開拓使官吏のための官舎(洋風のものが多く)や屯田兵屋が建設されました。

開拓次官の黒田清隆は、“お雇い外国人”のケプロン北海道の風土に合った住宅のあり方を研究させたほか、ロシア風の寒地住宅を導入しようと試み、ロシア人職人の手による暖炉が設置された実験住宅を建てさせようとしたが、高額な経費等の問題により普及するには至りませんでした。

開拓使の官舎に準ずるものとして屯田兵屋があります。屯田兵制度は開拓使設置(1869-1882)後、北海道庁(1886～)に引き継がれますが、この屯田兵屋も1899年までには全道で37カ兵村、約7,000戸の兵屋が建てられました。しかし、実際は厳しい財政状況により木造和風作りの質素な農家住宅と変わらないものでした。

(1) 『北海道の開拓と建築(上・下)』(北海道建築士会編 北海道 1987 請求記号 521-HO-1)

[内容](上巻 - 解説・写真)

建築別の学識経験者による解説文と、それに関連した約1,000枚の写真(明治・大正期に道内各地で発刊された記念写真帖・絵葉書から採集された珍しい入手困難なもの)を掲載したもので、市町村史及びそれらに掲載された文献をも調査。

[内容](上巻 - 建築年表)

各建物の年表と代表的な写真を収録。

(2) 『北海道開拓記念館調査報告(第15号)』(北海道開拓記念館 1978 請求記号 069-HO-15)

“北越殖民社入植地におけるクズ屋根の農家住宅について”の項(氏家等、矢島睿著)：p49～55

(3) 『新札幌市史(第2巻 通史2)』(札幌市教育委員会編 北海道新聞社 1991 請求記号 215.61-SA-2)

“第5編 札幌本府の形成 3 住宅事情と衣生活”の項：p516～522

- (4) 『**南北海道史 (42号、46号)**』(南北海道史研究会 1977.3、7)
 “道南建設よもやま話(上・下)”の項：p1～4、p4
- (5) 『**北海道農会報(第5巻第58号～第5巻60号)**』(北海道農会 1905)
 “北海道農村家屋改良論(1～3)”の項(北沢小八郎著):(1)p759～768(59号)
 号)(2)p837～850(59号)(3)p915～926(60号)
 住宅改善のための提案書で、農閑期を利用して家族や奉公人が一緒に過ごす「家庭室」の設計を提示しているが普及には至らなかった。
- (6) 『**北海道・東北地方の町並み1(日本の町並み調査報告書集成1)**』(東洋書林 2004 請求記号521.86-NI)
 “函館市西部地区の町並 - 町並の構成 - 2 住宅の型、3 住要求と住宅の変化、4 建物外観の現状と評価”の項：p19(45)～51(77)
- (7) 『**開拓使営繕事業の研究**』(遠藤明久著 開拓使編 北海道真駒内団地開発事務所 1961 請求記号521-E)
- (8) 『**札幌の建物(さっぽろ文庫23)**』(札幌市教育委員会編 札幌市 1982 請求記号081.2-SA-23)
 “第2章 2 住宅など”の項(角幸博著):p94～148
- (9) 『**名寄の古建築物(名寄叢書第5巻)**』(川島洋一著 市立名寄図書館 1984 請求記号081.2-NA-5)
 “3 名寄市の住環境とその変遷”の項：p166～183
- (10) 『**函館市史 都市・住文化編**』(函館市史編さん室編 函館市 1995 請求記号218.6-HA)
 “第4章 函館市民の住居と住様式”の項：p342～585
 函館の発展過程と住居様式、市街地住宅・郊外型住宅地・農家・漁家の生活についての論考。

1 - 4 大正～昭和期(1912～1926年/1926～1989年)

開拓期においては越冬時にはあまりにも粗末すぎる住宅を改善しようとする動きが、大正・昭和初期にかけて、サラリーマンや文化知識人層を中心に活発に起こってきました。“文化住宅”として有名なものにはマンサード屋根(将棋の駒型をした屋根)を持った旧有島武郎邸、物理学者中谷宇吉郎邸などがあります。

- (1) 『**北海道の住宅と住様式**』(安達富士夫編 北海道大学図書刊行会 1982 請求記号525.1-A)
 北海道の住宅の特色とあり方について、特に住空間構成、住様式、住宅生産組織、住宅需給構造といった、主に計画論的な面から研究したもの。

- (2) 『北海道建築 (No. 1、2、4、6～9)』(北海道建築協会 1940～1944)
戦前における北海道における建築雑誌。この時期の住まい作りの様子を知ることができる。
- (3) 『暮らしと住まい 北からの発信』(北方圏住宅研究会編 北海道新聞社 1989 請求記号 527-HO)
編者は“寒地住宅に関して産学協同で研究を行い、その成果を広く一般に普及・啓蒙する目的”に基づいて1982年に設立された団体であるが、北方型住宅とはどうあるべきかについて、研究会発足後7年間にわたる研究の成果をまとめたもの。
- (4) 『くらしと建物ものがたり - 旭山動物園の町旭川と北海道編 -』(川島洋一著 現代図書 2008 請求記号 521.6-KU)
旭川及びその他道内地域における建築物との出会いを平易かつロマンティックな語り口で綴った建物文化についての物語。北海道の開拓から今日までを支えた60数カ所を生活環境及び郷土史的側面からアプローチしたもの。
- (5) 『北国の住宅 (北国のくらしシリーズ1)』(北海道総務部知事室道民課編・刊 1969 請求記号 525.1-U)
住生活にかかわる基本問題を平易に解説したもの。
- (6) 『札幌生活文化史 <大正・昭和戦前期> (さっぽろ文庫・別冊)』(札幌市教育委員会文化資料室編 札幌市 1986 請求記号 081.2-SA-ツ-11)
“住 その時代”の項(越野武著): p24～33
- (7) 『北海道農村住宅変貌史の研究』(足達富士夫編著 北海道大学図書刊行会 1995 請求記号 527-HO)
1950、1974、1980、1991年の4時点における同一農家の変化を追跡調査した研究を中心に、北海道農村住宅の変化を辿ったもの。
- (8) 『道東の建築探訪』(北海道近代建築研究会編 北海道新聞社 2007 請求記号 521-D)
- (9) 『道南・道央の建築探訪』(北海道近代建築研究会編 北海道新聞社 2004 請求記号 521-D)
- (10) 『旭川と道北の建築探訪』(北海道近代建築研究会編 北海道新聞社 2000 請求記号 521-D)
以上、3冊とも豊富なカラー写真と解説により、道内各地における民家を含む各建築物の来歴を詳細に紹介。
- (11) 『開拓地の寒地生活 食と住と衣』(中村孝二郎著 北海道開拓協会 1952 請求記号 611.98-NA)
“3 寒地の住生活”の項: p41～107
開拓農家における住宅の特徴、防寒構造などについての記述。

- (12) 『昭和の話 (さっぽろ文庫 73)』(札幌市教育委員会編 北海道新聞社
1995 請求記号 081.2-SA-73)
“第1章 大正の余韻と軍国の影”の項より、
“住宅の改善”(廣田基彦著): p22~27、“寒地住宅の普及”(四天王政信著): p268
~273
- (13) 『北の住まい 日本列島民家の旅 東北・北海道』(木村勉著 INAX
出版 1997 請求記号 521-KI)
“北海道近代の住まい、その背景”: p5
- (14) 『北国の知恵を生かす家のつくりようは北をむねとすべし』(佐藤勝泰著
トソー出版 1990 請求記号 527-SA)
- (15) 『漁村の住まい』(北海道信用漁業協同組合連合会 1965 請求記号 525.1-HO)
漁村住宅の建築、改修上の技術的ポイントを平易に解説したもの。
- (16) 『子どもをはぐくむ住まいづくり 女性建築士と考えるー』(北海道建築
士女性委員会企画・編集 北海道建築士会 2005 請求記号 521-KO)
資料中、“私の育った家”として昭和30~40年代の間取りを紹介。
- (17) 『北の住まいと町並 もうひとつの生活空間』(足達富士夫著 北海道大学図書
刊行会 1990 請求記号 527-A)
- (18) 『家の作りようは北をむねとすべし 北国の知恵を生かす』(佐藤勝泰著
ト - ソ - 出版 1990 請求記号 527-SA)

【北方型住宅における防寒対策の取り組み】

寒地住宅についての本格的な研究が行われるようになったのは、戦後の1948年に北海道大学建築工学科が創設、1952年に道立ブロック建築指導所(1955年寒地研究所と改称)が設置されて以降のことで、暖房や断熱面での技術的な展開が見られました。

ここでは、ストーブ・ペチカなど、暖房器具に係わる住居についての資料に限定して紹介します。

- (1) 『かいはず (No.32)』(北海道開発問題研究調査会 1982.7)
特集論文「北海道における防寒住宅」(“防寒住宅に対する施策の変遷”などを収載)
- (2) 『札幌事始 (さっぽろ文庫 7)』(札幌市教育委員会編 札幌市 1979 請求記
号 081.2-SA-7)
“第6章 生活 寒地住宅”の項(遠藤明久著): p284~285
- (3) 『北方系住宅の窓』(日本建築学会北海道支部寒地住宅研究連絡特別委員会・窓の研
究小委員会編 北海道建築指導センター 1985 請求記号 524.44-HO)

北海道の窓の歴史をはじめ、北方型住宅の窓の性能（断熱性・機密性など）を解説。

- (4) 『北海道住宅改善研究報告書（第1～8号）』（北海道建築部 1953～1955
請求記号 527-HO-1～8）

北海道が建築計画研究会に委託・実施してきた寒地住宅の在り方についての研究をまとめたもの。

- (5) 『北の暮らし（No.8）』（北海タイムス社 1991）

“北方型住宅はここが違う”（p30～36）

防寒等、特色ある北方型住宅設計について紹介。

- (6) 『北海道の住宅事情と「北方型住宅」』（北海道立寒地住宅都市研究所編・刊
1998 請求記号 527-HO）

特に解説らしい解説はないが、北海道の住宅事情、北方型住宅の展開、北海道の住まいづくりの歩みなど、美しい図版を豊富に掲載し、コンパクトで非常に見やすい構成になっている。

- (7) 『北のすまい 地域らしさをデザインする』（北海道建築士会編 北海道建築指導センター 1998 請求記号 527-KI）

北方型住宅の普及を目指し、北海道が北海道建築会に委託・研究を行ってきた“地域性に配慮した北方型住宅”についての成果をまとめたもの。

- (8) 『われら北海道（No.68、69）』（自由広報センター 1994.3、4）

「北海道事始め - 暖房と燃料（上・下）」

（上）：“開拓時代の燃料事情や断熱住宅への取り組み”（p33～35）

（下）：“明治～昭和にかけての暖房器具の変遷について”（p39～41）

- (9) 『灯油節約のツボ 北海道における灯油有効利用』（経済産業省北海道経済産業局資源エネルギー環境部石油課〔編〕 経済産業省北海道経済産業局〔2006〕
請求記号 P592.5-TO）

- (10) 『北海道発 Only One の家づくり 改訂版』（北海道新聞社 2008 請求記号 527-HO）

寒冷積雪など、北海道の特性を踏まえて、北の家づくりを分かりやすく解説したガイドブック。

- (11) 『暮らしのなかのストーブ』（北海道開拓記念館編・刊 2006 請求記号 528.22-KU）

北海道開拓記念館 2006 移動博物館 釧路市立博物館特別展における展示解説書。北海道における暖房器具の歴史、北海道におけるストーブ利用などについての解説。図版が多用され大変読みやすい。

- (12) 『高性能住宅の施工技術 断熱・気密編 改訂版』（北海道建築指導センター 1997 請求記号 527-KO）

断熱及び気密工法の技術的なポイントを図版によって解説したもの。

- (13) 『これからの暮らしと住まい 北国の家づくりテキスト』(日本建築学会
北海道支部北方系住宅専門委員会編 北海道建築指導センター 1998 請求記号
527-KO)

寒地住宅に関する知識や技術に関する研究書・技術書は多く発行されてきたが、住
み手の立場で平易に解説されたテキスト。

- (14) 『北の住まいづくり』(北方圏住宅研究会編 北海道新聞社 1997 請求記号
527-KI)

ゆとりある豊かな北国の住まいの実現に向けての活動の成果をまとめたもの。

- (15) 『北の住まいづくりハンドブック』(北海道立北方建築総合研究所編 北海道建
築指導センター 2008 請求記号 527-KI)

住宅を建設する技術者の参考となるよう、蓄積された「北方型住宅」の設計・施工
手法の研究成果に加え、北国の暮らしや住まい方にも配慮した小冊子。

- (16) 『北の住まいを創る』(菊地弘明、飯田雅史著 北海道大学図書刊行会 1995
請求記号 527-KI)

ソフト・ハード両面から、高断熱・高气密住宅のあり方を通して快適な住まいとは
何かを考究したもの。

- 北海道立図書館北方資料室所蔵資料展 -

北の住まい

発行日 平成 20 年 3 月 12 日

編集 北海道立図書館北方資料部

発行 北海道立図書館

〒069 - 0834 江別市文京台東町 41 番地

T E L 011 - 386 - 8521

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>